



たたら

第 8 号
島根学習センター内
島根同窓会

発行者 竹下靖彦
2017年1月発行

<http://oushimaned.main.jp>
E-mail info@oushianed.main.jp



(諸手船神事：写真提供・知野見孝信さん)

寒風荒ぶなか、樅の木を刳り貫いた二艘の「諸手船」が、美保湾へと漕ぎ出でる。松江市美保関町の美保神社で、毎年12月3日に行われる「諸手船神事」は『古事記』の「葦原中国のことむけ」にある建御雷神が大国主神に国譲りを迫りし時、息子の事代主神にその後ご判断を仰ぎに行く場面、すなわち「故、爾に天鳥船神を遣はして、八重事代主神を徴し来て問ひ賜ひし時・・・」の神事であり、出雲地方で行われるその年最後のクライマックス神事である。

そして、漕ぎ出でた二艘の船は美保神社に到着すると、互いに相手の神船に櫂でもって激しく海水を掛け合い、祭神事代主神にご報告を終える。

八百万神々の去った出雲地方は、こうして新しい年を迎えるのである。(文・知野見)

**新年明けまして
おめでとろございます**

**昨年中は本当にお世話
になりました。本年も何卒
宜しく願いします。**

**みなさまとりまして良い
年となりますよう祈念いた
します**

島根同窓会役員一同

学ぶだけでいいのですか？

会長 竹下靖彦



島根同窓会会員の皆さま、あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話様になり、この紙面をお借りして御礼を申し上げます。

皆さんは新しい年にあたり、どのような展望を描きながら迎えられましたでしょうか。更なる飛躍の年にするのか、それとも現状維持とするのか様々な思いがごありのことと存じます。

さて、島根同窓会も早いもので、本年は設立5年目を迎えることとなります。思えば設立後は取組む課題が数多くあり、あれも、これもと追い回されて慌しく歳月が過ぎた次第です。

昨年の総会にてお約束致しました“ホームページ”を昨年4月より立ち上げ、会員の皆さん、在学生の皆さん、大学以外の多くの方々に島根同窓会の存在をアピールできることとなります。

また島根同窓会として、島根学習センター開設20周年記念事業成功のため、学長を迎えて盛大に開催することができました。当日は会員、学生、市民だけでなく、卒業生の方々、センターを支えてこられた元職員、客員教員の先生方、中四国から所長、事務長も記念行事や祝賀会にご参加頂き、懐かしい当時の学生生活を回顧されたことと思います。共催しました同窓会からも改めて関係者の皆様方に御礼申し上げます。

私自身の課題

私は今年を展望するにあたり、まずは今日の政治情勢について大いに怒りを抱いています。

自民党と安倍内閣、これを補完する勢力による民意を無視した政治がまかり通り、日本には最早立憲民主主義が崩壊したととられる強権政治ががむしゃらに遂行され、数を背景とし言葉だけの“国民に丁寧に説明する”と語りなが

ら、議論を尽くすことなく問答無用とばかり、私から見ると悪法の限りを尽くしている。

一昨年は私にとって安保法制強行は許しがたき暴挙でしたが、昨年はさらに南スーダンへのPKO(国連平和維持活動)=UNMISSに派兵されている自衛隊に、戦争法(安保法制)に基づき新たに付与された「駆けつけ警護」任務遂行のための武器使用が実施可能となり、“殺し、殺される”現実的な危険となり、憲法が禁じた海外での武力行使になる可能が大である。さらに国会決議に反する環太平洋連携協定(TPP)承認案・関連法案、年金カット法案、カジノ解禁推進法案など悪法を僅かな審議時間で強行した。まさに“やりたい放題”を呈しています。

日本国民は怒りを放棄したのですか？

私は高齢のため後期高齢者で、体調維持のために努めてはいるが、政府・与党は高齢者を狙い撃ちにした医療・介護制度の負担増と給付減を盛り込んだ改悪案を通常国会に上程とのマスコミ報道に驚愕した。それは、70歳以上の自己負担の引き上げや、75歳以上の保険料「特別軽減」を廃止することです。75歳以上で年金収入が年80万円以上の人が4割もいるのに、負担増は受診抑制を招き、重症化となり医療費が増大することは目に見えている愚策です。

高齢者に対する差別は、翻ると現役世代に波及することは、これまでの数々の悪法で実証済みで、老いも若きも負担増となる。日本国民は怒りを忘れ耐え忍ぶ戦前の経験は、もう払拭する時ではと思いつつ新年を迎えました。

何のために教養を学ぶのか？

故加藤周一は(『教養の再生のために』)の中で「自分の知識とか頭脳を権力を強化するために使うというのは、人民に対する一種の裏切り」と述べ、また、「戦争を批判するのに役立たない教養であったら、それは紙くずと同じではないか」とも述べている。私はこの言葉を“常に肝に銘じて”学びと行動の規範にしたい。

島根学習センター所長

島根学習センター 開設 20 周年記念を迎えて

佐々 有生



明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、やはり放送大学島根学習センター開設 20 周年記念が大きな行事になりました。

多くのご来賓の皆様、そして放送大学本部からは、岡部洋一学長、松川誠司事務局長、そして学務部連携教育課連携協力係の佐藤宏光主任の 3 名の方々にご出席いただき、盛会裡のうちに終えることができホッとしております。

記念行事後、数日して佐藤主任より丁寧なメールが届きました。そこには、次のように記されていました。

「…島根 SC 職員の方々の積極的な準備への取組や、祝賀会でのホスピタリティの高さは、いろいろな SC 職員を見てきておりますが、SC の結束力は全国でも 3 本に入るのでないでしょうか。」

他の幾つか記念式典に出席経験されての感想です。佐藤主任とは、日頃より親しく言葉を交わしており、過分なお褒めながらも全くの社交辞令ではないと受け止めています。そして、何より、こうして本学習センターのよさ・持ち味に注視され、気づかせていただいたことを嬉しく感じています。

同窓会・校友会の皆さんも含めて

メールでは「島根 SC 職員の方々」の文言になっていますが、そこは当然ながら「学生の皆さん」の意も含まれています。開設 20 周年記念行事の準備・開催等に当たって、同窓会・校友会の皆さんには、記念行事への参加はもちろんのこ

と、本当に様々なかたちでご理解・ご支援等をいただきました。会場が県立美術館だったことから、準備段階で前日からのテーブル・イス等の運搬が必要でした。そして当日の受付対応、記念祝賀会出席・祝辞、記録写真など、終日、様々な側面から協力・支援等をいただき大変嬉しく思いました。同窓会・校友会・学生の皆様には、改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、本学習センターは、設立時の平成 8 年度 2 学期、学生数 581 名でスタートしています。以降、年度・学期によっては、多少の学生数の増減をみますが、本学習センター開設 20 周年記念を迎えた本年度 2 学期現在、設立当初とほぼ同じくらい約 600 名近くの学生の皆さんが真摯に学ばれています。

同窓会活動に支えられ

併せて、平成 25 年 4 月に「同窓会」の設立、そして平成 26 年 3 月には念願の「同窓会ホームページ」が開設さ、今日、設立当初と比べて、学生の皆さんの放送大学の学びに対する意識や相互の結びつきなど、その内実は大いなる深化をみるのではないのでしょうか。

日も暮れて、すでに宍道湖の水面には明かりがきらめき、記念祝賀会の宴たけなわも少し過ぎた頃、岡部学長と学生の皆さんが名刺交換されたり談笑されたりしているほほえましい姿を目にしました。とりわけ岡部学長を囲んで次々と記念写真を撮られている学生の皆さんの満面の笑顔に出会って、ようやく心が和んできたことを思い起こしています。

今後とも、島根学習センターのよさ・持ち味である「結束力」を生かしながら、学生の皆さんの充実した学びが刻まれていくよう努めたいと心新たにしています。本年もどうかよろしくお願いします。



平成28年度 第1学期 学位記授与式が行われました

平成28年度第1学期学位記授与式が、9月25日（日）午前11時から島根学習センター3階第1講義室で開催されました。第1学期は教養学部16名の方が卒業され8名が出席された。また、初めての卒業は9名でした。最初に佐々学習センター長より卒業生おひとりお一人に晴れの学位記が手渡され会場の出席者ともにその卒業を讃えました。

次に佐々学習センター長から式辞があり、今夏の感動がまだ覚めやまないリオデジャネイロオリンピックでの松江市出身錦織圭選手が96年ぶりのメダル獲得の活躍に触られ、スペイン・ナダル選手との対戦の第2セットを落とし何度も気持ちが落ちかけたときも、集中力を切らさず、勝利と銅メダルへの執念をもち、勝利後も仲間へ感謝の気持ちを忘れませんでした。卒業生の皆様にも錦織選手の思いと重なる部分があったと思います。家族、同僚、学友など多くの人の支えがあったと思われませんが、これからもさまざまな目標に向かっていきいきと豊かに歩まれることを望まれました。

続いて来賓として足立前学習センター所長と竹下島根同窓会長から祝辞がありました。足立先生は湯浅邦弘著“超入門「中国思想」”から孟子、孔子らの思想を引用し、卒業生にはなむけの言葉を贈られました。竹下会長は同窓会の社会貢献にさらに一步を踏み出したい。皆様には放送大学で学ばれた知識を地域社会の多くの方面でその役割を果たして欲しい。そのためにはリーダーとして推されるならその期待に応える準備をして欲しい。そして同窓会に入会して放送大学とのつながりを保って頂きたいと述べられました。

在学生を代表して生活と福祉コースの佐々木惇敏さんが送辞を述べられた。この日を迎えられた先輩の向学心や不屈の精神を学ぶと共に放



1学期学位記授与式の皆さん

送大学の「教養はエネルギーだ」をモットーとし、さらに学習に励みたいと述べられた。

続いて卒業生を代表して心理と教育コースの小村朋子さんが答辞を述べられた。大学を卒業することは長い間の念願であったので、短大卒業後、家庭との両立等幾多の困難を経験したが、放送大学全科履修生として再挑戦した。さまざまな支援や刺激を得ながらも乳幼児心理学など学ぶ楽しさを味わうことができ、今後も学び続けたいと述べられました。

続いて客員教授から卒業生おひとりお一人に大きな拍手とともに花束の贈呈があり皆様のご卒業を祝されました。（小汀 政徳 記）



客員教員より花束の贈呈

「平成28年度第一学期」 卒業を祝う会を開催しました



1学期卒業を祝う会

去る、平成28年9月25(日)、学位記授与式終了後、島根学習センター4階第二講義室において、卒業生を祝う会が開催されました。本会は同窓会が主催し学習センターが共催して行われたものです。今回の出席者は3名と前回に比べ少しすくなくなりましたが、会はいつものように大いに盛りあがりました。

客員教員の先生方も祝福

お祝いには佐々島根学習センター所長様、各客員教員の皆様も参加していただき、緊張から解放された卒業生の晴れやかな表情でとても華やかな雰囲気の中で行われました。

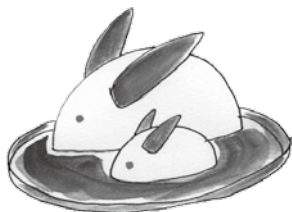
はじめに、竹下会長から、卒業生・修了生の努力や支えていただいた方への感謝を込めて、お祝いの挨拶がありました。また、最近のニュースを例に放送大学の認知度アップの必要性についての話があり、またあと少しで100名の大台に乗ることから、同窓会への加入の願いもありました。

恒例により、会費制の食事をとった後、卒業生の方々からひと言ずつ苦労話や今後の抱負などを話していただきました。

卒業生の方からは「二度であり最初のときより苦労は少なかった」、参加された3名の方はいずれも「継続入学したい」、などそれぞれに思いを語っていただきました。続いて、出席いただいた客員教員の先生方の専門分野の紹介などもしていただきました。

その後、同窓会のメンバーから作文の時間での活動状況や自身の取り組んでいる状況の紹介などをしていただき、時間いっぱいまで和やかな、ひと時を過ごし終了しました。

(記 石川直樹)



卒業生の声

よろしくおねがいします

心理と教育コース 小村朋子



9月の卒業式で、同窓会の方々に様々なお世話をしていただいている事を知りました。(入学式に不参加でしたので、不見識ですみません。)

会長の竹下さんに「同窓会に入ってよ。」と言われ、思わず「はい。」と答えてしまった私です。皆さんが気さくに接してくださり、感謝です。

放送大学への入学のきっかけは、「退職したらもう一度学び直したい。念願だった大学を卒業したい。」と考えたからです。

久々の学びはとても新鮮で、楽しいものでした。中でも面接授業は、面白かったです。＜心理と教育＞コースを選び認定心理士の取得を目指したのですが、短期間で心理学実験1・2・3と検査法の面接授業を受講するには、島根学習センターだけでは難しく、東京文京学習センターでの受講が中心となりました。全国からいろいろな方が集い、様々な出会いがありました。娘の不登校を何とか改善したい方、自らうつ状態から抜け出そうと受講した方、仕事のレベルアップを目指す方……意欲的な方々に出会いとても刺激を受けました。

奈良学習センター(奈良女子大内)ではフランス語を広島学習センター(広大内)ではドイツ語をそれぞれ受講し、久々の語学で四苦八苦したのも懐かしい思い出です。その前後には観光も楽しみました。

この夏は、島根学習センターで開催された「日本城郭史一松江城を事例として」を受講しました。国宝に指定されて一年、姫路や鳥取からの参加者もありました。天守の構造や石垣の積み方などどれも初めての内容で興味深いものでした。松江城へ行くと「これは何時の修理？」必ず

石垣に目が行きます。

各学期の試験前や面接授業に出かけたりするのを、温かく見守り、協力してくれた家族には感謝しています。

この秋卒業を機会に、同窓会に仲間入りさせていただきました。よろしくお願いいたします。

平成28年度第一学期 卒業を祝う会が盛大に開催されました。



昨年平成28年9月25(日)、学位記授与式終了後、島根学習センター4階第二講義室において、卒業生を祝う会が開催されました。本会は同窓会が主催し、学習センターが共催して行われたものです。今回の出席者は3名と前回に比べ少しすくなくなりましたが、会は何時ものように大いに盛りあがりました。お祝いに佐々島根学習センター所長、各客員教授の皆様も参加していただき、緊張から解放された卒業生の晴れやかな表情で、とても華やかな雰囲気の中で行われました。

はじめに、竹下会長から、卒業生・修了生の努力や支えていただいた方への感謝を込めて、お祝いの挨拶がありました。また、最近のニュースを例に放送大学の認知度アップの必要性についての話があり、あと少しで100名の大台に乗るため、同窓会への加入の願いもありました。

恒例により、食事をとったあと、卒業生の方からひと言ずつ苦労話や今後の抱負などを話していただきました。

卒業生の方からは「二度であり最初のときより苦労は少なかった」、参加された3名の方はい

ずれも「継続入学したい」、などそれぞれに思いを語っていただきました。続いて、出席いただいた客員教授のみなさまからも、お祝いの言葉や担当されている専門の紹介などもしていただきました。卒業生の方と同窓会員による懇談は時間いっぱいまで続き、和やかなひと時を過ごして終了しました。(記 石川直樹)

新年にかける私の決意

副会長 石川 直樹



明けましておめでとうございます。皆様、良い新年をお迎えのことと思います。早いもので、放送大学を卒業し

てから、早や4年が過ぎました。振り返れば、あっという間だったような気がします。今でも全国の同期のメンバーとは情報交換をしています。それぞれ新しい目標にチャレンジをして頑張っているようです。自分も頑張らなければと思っていますが、あせるばかりで、なかなか実行できていません。

さて同窓会も今年は5年目を迎えます。まずは、活動が真に学生の皆さんの力になればと考えています。島根同窓会は会員の努力の成果で、小さいながらも、活力ある全国に誇れる同窓会になったと思います。特に、昨年は念願の同窓会のホームページの立ち上げができ、様々な形で情報発信ができたのではと思っています。なかでも、各種講演会の記録は、その時々最新の話題についてのものであり、積み重ねていけば、今後の貴重な資料になると思っています。

いよいよ本題です。昨年は目標として、どんなに多忙であっても、学生として基本的な学習をしながら、研究課題である文化人類学の勉強もしていきたいとの目標を立てましたが、研究のほうが、思うようにできませんでした。したがって、今年は今一度昨年と同じ目標にチャレンジしたいと思います。

最後に、私たちの生活を取り巻く環境はどの分野においても厳しいものになっています。世の中をよりよく変えていくには、一人ひとりが物事に関心を持ち、そのことを学習して行くことが大切だと思います。そのために、地道ではありますが放送大学で学んだ知識を自分の置かれた立場で活かして行きたいと思っています。

新年にかける私の決意

監事 知野見 孝信



「・・・樗櫟之材、玩具ほどの能力しかないエンジンをフル回転させ、朝は二時の起床から始まり、すべてを自分の身の丈以上に合わせようと精神一

到、何事かならざらんで無理をしてきたからオーバーヒートした・・・」

一昨年暮れから昨年正月半ばまで、私は不摂生から三週間の入院生活を経験した。

前段の文章は「ほどほどに」というタイトルの作文の中からその一部を抜粋したものである。島根学習センターでは毎月1回足立悦男先生主宰による“だんだんサロン作文の時間”が開かれており、昨年私は手作り作文集『学びへのアプローチ』と題してA4用紙に16篇程にこれをまとめ、ホッチキスで綴じただけという全く手作りの手製作文集を出した。

今年の目標は、昨年1年間に溜まっただんだんサロン作文の時間に発表したものをもう一度まとめて『学びへのアプローチ』第二集を出すことである。

第1回

鳥取西部地域会員・学生懇談会を開催

平成28年10月1日(土)15:20~16:50まで、鳥取県米子市「米子ビッグシップ5階」において、同窓会主催・共催学習センターに、同窓会と



して初めての開催となった。

懇談会には学習センターから佐々所長、北川主任、同窓会から役員を含め15人、在学生5人が出席した。

石川副会長の司会で始まり、竹下会長より西部地域には100名を超える会員、学生がおられます。県境に左右されないで島根学習センターに所属されていて十分に意見交換することが出来ずに来ました。本日は学習センターと同窓会への要望を忌憚なくお出し下さいと挨拶。

続いて佐々所長より「1学期現在で学生登録が108名となっている。日頃是对話が不足しているので、本日はご意見を伺いたい」と挨拶があり、各自の自己紹介を行った後、懇談に移り率直な意見交換を行った。

大学についての意見としては

- ・参加者よりこれまでに先行して科目履修していましたが、今度の新カリキュラム変更で、既に履修した科目が無駄になっていることへの意見が出され、竹下会長より説明がなされた。
- ・10年の在籍期間終了で、新たに再入学した際の説明が不十分のため、新カリで総合科目を履修することになった。なぜ追加となったのか説明が不足であった。
- ・私もセンターに相談したが、説明が不十分なことがあった。
- ・コース変更するにも周知徹底する期間が保障されるべきであったのではないかと。

佐々所長より行事案内として、11月開催の学習センター開設20周年記念事業での学長講演についての案内と、祝賀会への参加について説明がなされた。学生の皆さんも参加できる枠が

ありますので積極的に参加下さい。ただ会場が狭く広くご案内するのに制限がついて申し訳ないが何卒ご了承下さい。との案内があった。

- ・面接授業に関して、統計学について企画して欲しい。印刷教材だけでなく面接でも具体的に学びたいので。
- ・問題解決の数理を履修したが、印刷教材を読んでも理解が出来ず、客員教員に相談して事なきを得たので、こんな解決方法もあるのではないか？
- ・英語のゼミに参加しているが、いろんなゼミを開設できないでしょうか？
- ・現在「作文に時間とおしゃべり会」に参加しているが、担当教員が辞められるので、是非継続できるよう検討して欲しい。

同窓会に対しては

- ・同窓会の財政についての話がありましたが、同窓会からの広報活動について、同じような広報紙が出されていて私はムダだと思う。センターからの“だんだん”や同窓会のHPにも掲載されているので、広報紙の質を高める必要がある。失礼だが広報紙をたくさん発行しても果たしてどれ程効果があるのか不明である。費用対効果で検討を要する？
- ・広報紙は部内で印刷なのか、外部に発注されているのか問われ、懇意にしている印刷所に発注しているので安価との回答があった。
- ・ITを駆使して広報の伝達方法を検討する必要があるのではないか？
- ・高齢学生中心でなく、広い世代へ対応できる広報活動とする改善が必要では？
- ・会員名簿の作成だが、年2回も発行する必要はないのでムダだ？などの意見が出された。

最後に金田理事より「本日は平素遭遇できない方と久方ぶりに懇談できて有意義な会となりました。今後も機会を見まして開催しますのでその節にはぜひご参加下さい。」と、閉会挨拶で閉会した。

第8回公開講演会

日本の城郭 “米子城”



講師 金澤 雄記先生
(米子高専助教)

日本の城は、1つは天然の地形を生かして山の頂上付近や山全体を利用して造る城。2つには平山城で丘陵地や平地を利用して造られた城。3つ目は田んぼの近くに背の低いところに石垣があるとその存在は平城です。

日本には大体2万から4万ぐらいと言われている。2キロ四方に一つあると考えられる。かつこ良い山や平地にボコッと盛り上がっているところはほぼお城なのです。近くでは松江城や姫路城ですが、水堀があって、高い石垣があって、沢山の櫓があって頂上に高い天守があってと想像されると思います。

米子城の建物構造は、小高い山の上に石垣の一部が見えているが、頂上に2基の天守が建っていたのが一つの特徴です。2つの天守は珍しくはなく、熊本城は2つ、姫路城は4つあります。米子城の2つの天守は建築年代が10年ずれていること。天守とは単なる巨大な武器庫であって、生活する場所ではない。天守は普段鍵が掛けて在り、鉄砲、槍、弓、火薬など保管しており、誰でも自由に入れない巨大な土蔵なのです。

殿や姫の住居は、山の下に必ず御殿という建物があります。米子城では今テニスコート場に御殿があり、ここで生活していた。今は野球場になっている所は年貢米を保管する蔵が一杯建ち並んでいた。人が住まない天守とは、万が一戦争になる場合に司令塔や物見櫓となる可能性があります。

天守の歴史は15年間

日本の城の転換期は1600年の関ヶ原の戦い



で、次の転換期は1615年の大阪夏の陣、冬の陣で、徳川に敵対する勢力はなくなったので、大名に対し一国一城令で、城の新築は認めない軍縮令を出し、城の歴史は僅か15年に過ぎない。城の受難時代は江戸時代から明治時代となって廃城令が出され、明治政府は封建時代の最たるものが城であり、日本の城はことごとく壊され、大体160位が21基まで減らされました。

現存する国宝天守は5基のみ

今残っている城の天守に限ると12基しか残っていない。櫓とか門等は50くらい残っている。国宝は松本城、犬山城、彦根城、姫路城、松江城の5つです。岡山城や広島城、福山城に行くと、天守が建っているが、戦後復興が終わって、町のシンボルが空襲で焼けたのは悲しいと、昭和50年～60年代になると、ふるさと創生で地方自治体に1億円を均等に交付したが、中にはわが町に城をと、ただ広い山とか公園に勝手に石垣を造って、城を建てた町があった。モデルは岐阜に国宝の犬山城があり、4階建ての丁度いい大きさなので、大体真似て犬山城らしい建物を日本各地に建てた。大体50棟ぐらいあります。鳥取市の河原城は下から観るとカッコ良いですが、これも犬山城ファミリーです。

平成10年位になって、文化庁が建てるなら木造で、完璧に昔の図面にに基づき、真面目に復元しようという動きになってきた。第1号が静岡県掛川城が復元されたが、これが史実に100%かという、実は定かではないが昔のままに近い城です。さらに愛媛の大洲城は4階建てを木造で復元していますが、これを観たらわが町にも城が欲しいと思わせる位良くできた城です。

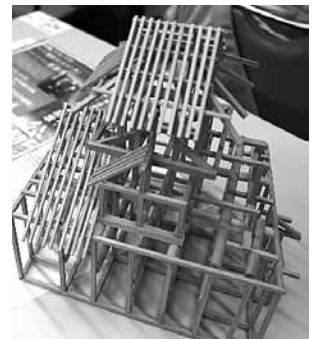
さらに宮城県の白石城、沖縄の首里城もです。

最近では天守だけでなく、御殿、櫓、門なども木造で復元する時代となって、金沢城の櫓ですが、明治に壊されたものを平成になって木造で復元しました。するとNHKの大河ドラマのロケ地となり、観光客が来て観光収入が増加し新幹線が開通しました。城を復元することで観光客が増えています。後、道後温泉に伊予松山城がありますが、残っていたのは天守と一部の櫓と門で、それ以外は全部復元が完了しました。

天守の20年後といえば、昭和30年代に鉄筋コンクリートで外観を復元した建物です。熊本城天守の屋根瓦が崩落したが、実は屋根はコンクリートで昭和40年に復元した建物です。コンクリートで復元した建物は、寿命が長くて80年です。大体昭和30年代に復元した建物は、建て替える必要で今後はコンクリートでの復元はしないとなっています。

米子城の歴史は

米子城の復元ですが、どれ位正確な建物が可能なのか、復元できる正確な資料はどの疑問が出ます。簡単に米子城の歴史ですが、最初に築城に取り組んだのが吉川広家です。日本三大裏切り者の一人が小早川秀秋で、この裏切りを唆したのが吉川広家です。



毛利が破れて吉川広家は岩国に転付され、代わって徳川方の中村一孝が来ます。吉川広家が建てた天守の横に一回り大きな天守を建てたので米子には2つの天守が建った訳です。広家の天守で良いのに、中村は自分の新しい天守が欲しくてもう一つ建てたのが米子城です。

後、もう一つ米子城の特徴は、天守が2つ建っていますが建築年代が10年ずれていて、時代の異なる2基の天守が米子城の特徴です。幕末に小天守の石垣が崩れ、篤志家が掘出して直し



たが、30年後の明治に廃城令で2つの天守と周りの御殿や、櫓、門に至るまで壊したのが米子城の簡単な歴史です。

果たして風呂屋の薪となったのか？

米子城の都市伝説ですが、天守を壊して風呂屋の薪にした話は、半分正解で、半分嘘だと思っている。昔は良い材料を使っていて、門は大体付近のお寺とか神社に払い下げ、櫓は農家がいちいち自分の米蔵とか、いろんな所へ転用したと思います。米子の町屋を調査しているが、明治に建てた町屋の中に城の廃材と思われるものが使っていて、天守や御殿のような太い材料は民家に払い下げ、城下町の建物の建築に使ったと思います。屋根の細い垂木や窓枠などは風呂屋の薪となったでしょう。

天守の復元資料が必要なのか、150年前に壊された建物のどんな資料を探すかといえ、1つは古写真です。米子城に関して僅か1枚だけ古写真がある。大小の天守が建っていたが写真は小天守の方は石垣だけが見えているので壊され、大天守の横顔だけ少し見えている。

他に何が必要かとなると、天守と城の設計図ですが、日本には城の設計図は存在しない。しかし、江戸城、大阪城、名古屋城、二条城に関してはあるのです。城は軍事機密のため、建築時はあるが完成後は焼却して軍事機密を守っている。次は真面目に描いた絵です。絵があれば何とかあります。米子城は江戸時代に石垣や建物が崩れ、修理予定を書いた絵が20枚くらい残っているが、稚拙な絵で建物の形が描いてないので信憑性に欠けるが、天守の高さや大きさは書

いてあるので信用できる。

大天守の方は外観で分かるが、内部は全く不明です。礎石があるので1階の柱位置は分かるが、2階以上の柱は不明、梁はどう架かっていたのか等決め手となる資料はない。内部の写真もなく、間取りも不明で不確かな資料のため、復元するには資料不足です。木造で完全復元する時代ですから、資料がないため文化庁から駄目出しとなる。木造復元とはそれほど難しいのです。今松江城の大手門の復元に動いているが、写真とか、絵とか図面とかの資料がないから資料不足で駄目となる。発見時は500万円の懸賞金がかかっている。

米子城の大天守を復元するために資金があっても建てられない。逆に小天守については建てた当時の設計図ではなく、建てて250年後の幕末に篤志家が修理時に描いた設計図が残っており、これも1つの設計図です。

城マニアの間では、次の復元は米子城天守と囁かれています。それは1級の資料があるため。だが資料がありながら建てられない。それは250年後の姿であって、天守は傷んで改築していて、最上階にはベランダがあったのに、雨風でボロボロになって、ベランダの外側に板を貼って隠して、ろくろ首みたいな火の見櫓となっている。

石垣が築城年代の手掛かり

城を観る場合には建物だけでなく石垣の見方について、古いか新しいかを見分ける方法ですが、城の石垣は角の石垣をどのように築いているか。



青森・弘前城石垣

古いお城は直角に石垣を造ることはできない。圧力が90度に掛かって来るので、できるだけ開いた直線に近い状態の120度位に傾いていて、信長が建てた安土城は木造建築としては長方形の方が良いのですが、石垣は造れないため八角

形となっている。岡山城なんかも一方は高い石垣になって本丸が乗っていて、90度に造れないので意味の解からない5角形になっている。ところが大体1605年位になるときっちり長方形となる。米子城の古い方の天守は5角形と歪んでいるが、新しい天守はきっちり長方形となっている。

後一つ、横から見て石垣の積み方を見ると良く分かる。角の部分を見分けると最初の頃は大きな石をポンポンと積み上げていたのですが、1605年位から算木積みという積み方ができたので長方形になるのですが、このように積むことによって角を90度に造ることができるようになった。上から見て歪んでいるか、横から見て大きな石が互い違いになっているかで、1605年より古いかを簡単に見分けることができる。このことを知った上で松江城の石垣を見ると、両方の積み方がされている。

天守の復元で経済効果は

次に米子城を復元できる可能性は、天守1基を復元するのに、今まで大体3階建てか4階建ての天守を復元している。掛川城、白石城、大洲城では、大体10～15億円です。掛川城は市民の方が城の復元に5億円寄付したので、市もやらざるを得なくなって建てた城で、米子でも5億円寄付されたら、市も建てなくてはならない

経済効果ですが、掛川城の場合はなんでもなしに山に城を復元したことで、年間20万人の人が来るようになって、1人大体3000円落とせば単純計算で6億円となります。15億の内訳は国の史跡なので半分は国、残り半分は県の負担、市は残りの3億円位の負担で可能です。

今日は天守の話だけでしたが、天守だけが独り歩きをしても仕方がなく、御殿、櫓、塀、蔵など城を構成する全体と、市内には当時の街並みが残っていますので、20年後位に城が欲しいとの動きがあれば私としては大変嬉しい。ご清聴ありがとうございました。



新連載

同窓会先輩会員を訪ねて

第1回 土谷章子さん

先輩同窓会員を訪ねては、島根学習センター同窓会の会員で、最も早く卒業されて松江市内ではなく車で30分のところにお住まいで、静かな環境にてお暮しです。



第1回としてご登場いただくのに相応しい方でした。取材には安部広報部員と竹下会長が自宅に訪問しました。

夫が入学していて、楽しそうで

放送大学をどこでお知りになりましたか？

土谷 夫が先に入学していて、学生生活を垣間見て、このような放送大学は良いと感じ、放送大学のシステムが分かりましたので迷わずに入学しました。夫に勧められたのではなく私自身が良いと判断したからです。当時はまだ勤めていたので忙しくて、果たしてどうかなあ〜と思いました。

入学へ背中を押したのは何でしたか？

土谷 入学の動機は、夫の学生研修旅行先が岡山の閑谷学校で、家族も同行可でしたので参加したところ、バスの中でも、現地でも学生さん同士の会話が大変良く、実に和気あいとされていて迷わずに入学を決意しました。



入学されたコースはなんでしたか？

土谷 平成11年に「生活と福祉コース」に学士入学し、平成13年に卒業しました。学士入学なので卒業要件が124単位の半分なので、夫より早く卒業できました。

卒業後はどうされました？

土谷 卒業後に大学院が設けられたので「臨床心理士養成コース」を迷わずに受験しましたが見事に落ちました。後で聞きましたら入学希望者が多く、倍率が高いのに知識が乏しかったにも拘わらず受験したので、落ちるのは当然だと認識しました。生活と福祉コースでは心理についての科目履修はしていませんでしたので。

認定心理士取得へ挑戦

そこで放送大学を断念されたのですか？

土谷 大学院は全科生ではなく科目生として、平成14年から17年まで4年間掛かって、臨床心理士コースの科目で、放送で取れる科目は全て単位を修得しました。そこで先生から臨床心理士ではなく認定心理士の資格が取れることを聞き、再度「発達と教育コース」に入学しました。日本心理学会が決めていた科目が多くあり、面接授業の科目もあって、実際に実験やGWでは電卓を叩いて計算したり、仲間と学習してデータをまとめるなど、大学生活を実感できたので面白かったです。

さらに他県のセンターへも良く出かけました。長崎、徳島、京都、広島、鳥取にも行きました。そこで県外の学生さんと出会いとても楽しかったです。

何故心理学を学びたいと思われましたか？

土谷 県の高齢者大学校で学んでいたとき、山登りや尾瀬にも行ったりして、大変親しくしていた方が突然入水自殺されましたが、私は親しくしていたのに直前まで伺い知ることが出来な

かったし、気も付かなかった。そこで資格が取れたら人のお役に立てるのではないかと考え認定心理士に挑戦したのです。

当時は勉強だけでなく、 学生同士が持てる力を出しあっていた

入学当時の大学について印象は？

土谷 最初に入学していた頃は、私を含めて若くてとても活動的で、学生同士仲が良くサークル活動にも熱心で、特に俳句の吟行では京都や隠岐へ出かけ、とても活動的で大いに刺激を受けました。当時熱心なNさんが在学されており、とても熱心な方で海外に出かけられ、中国で日本が第二次世界大戦で被害をかけたことや、ナチスがユダヤ人をホロコースで沢山虐殺したことや、ポーランドなどに出かけられて、皆さん勉強しなさいと非常に多くの本を紹介され、資料なども多く頂きました。

当時は、大学で勉強するだけでなく、学生同士が持てる力を出しあって、刺激し合うことが大事なことでした。特に錦織所長さんが熱心にお世話下さって、和紙のサークルで岡山の紙漉きの見学、青谷での紙漉き見学など頻繁に出かけました。私は面接授業で県外での履修が楽しくて、島根学習センターだけでなく出かけました。

年齢を重ねられ勉強方法が変わりましたか？

土谷 年齢を重ねることで、勉強方法が変わって来たことは確かです。ただ単位を取るここから、履修した科目の関連する事項をさらに深めることへと変化しました

今はパレスチナ問題に取り組んでいます。それも偏った立場からではなく、そうはない立場からはどうなのかを客観的に深める手法へと変化したことです。広く浅くではなくてより深めることにしています。

学生に対する助言がありましたら？

土谷 後輩に対しては、助言とはならないかも

知れませんが、学ぶことの楽しさを味わってほしい。広く浅くても、狭く深くても。人間の成長に役立つと思いますので。

同窓会の会報“たたら”へご意見は？

土谷 会報は読んでいますが、取り立てて意見はありません。

ホームページはご覧になっていますか？

土谷 パソコンを持っていませんので、残念ながら見たことはありません。

活動内容については如何ですか？

土谷 役員の皆さん大変頑張っておられますね。

大学の談話室の本棚を活用

大変な読書家とのことですが、月に何冊くらい読まれますか？

土谷 以前は小説なら1日に1冊くらいでしたので月に10冊くらいでしたが、今は1冊を5回くらい読みます。図書館では返却日が短いので、良くセンターの談話室に多くの冊子があるので、借り出して読んでいます。

今は心理学を勉強して、少年犯罪に興味を抱いています。本を読んで一番驚いたことは、永山則夫の精神鑑定書がものすごく緻密に描かれていたのに、裁判では不採用となってお蔵入りとなり、それを冊子として世に出した本です。永山則夫が日本赤軍の飛行場乱射事件で人を殺した後に、ことです。日本でその大会があったときに、獄中から支援のメッセージを送っていて、その関係性に驚きました。次から次へと疑問が深まり探求せずにはいられませんでした。神戸のA少年事件についても同様です。



読書の後に必ずノートを取ります

読書の書評などを執筆して欲しいですが？

土谷 読んで感動を覚えますが、長く記憶にとどめることは難しいものです。ですから私は読書の後には必ずノートに取って記録しています。書くことによって要約して整理することができます。私のものでよければ協力します。

取材を終えて

土谷章子さんには、ご多用の中退院後にも係らずに長時間にわたり、取材にご協力頂き有り難うございました。特にご主人様には時代劇に現れる本格的なお茶室にて、秋の残花が開放されて夏に充電された椿が主役となり、この日に“炉開き”されて立ち上がる温気うんきの中でのお点前を頂きました。お蔭で至福のひと時を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

会員リレートーク⑥

「ベンガラ村」を旅して

糸原久恵



映画（八つ墓村ロケ地）「広兼邸」

放送大学の研修旅行では、毎年たくさんのことを学ばせていただいている。今年は岡山県高梁市の「吹屋ふるさと村」を訪ねる旅行だった。銅とベンガラで巨大な富を得た広兼邸や片山家で働く多くの人々や、坑道で働いていた坑夫の姿が印象的であった。

ここでは邸宅の書院造りや茶室等の豪華な造りに関心が寄せられるのが普通だと思う。どの時代の建築も、あるいは産業に関しても、最高位のものがあるように推移していったかが視点の行くところだと思う。しかし、その時代の底辺で働く人々は、どのように暮らすことができたのだろうか、常に生死の狭間で生きることを

余儀なくされた人々のことを私は思わざるを得ない。

水琴窟のある庭園と厩肥落しの隣にある下女部屋を比較した時、いったい人間



庭先の水琴窟

はどの位のものとして見られていたのだろうかと感じた。ほとんどの人間にとって目に留まるのは、豪華な邸宅や着飾った人々の姿だ。みすばらしい人に対しては、卑しめの眼を投げかけるだけで、何の関心も示さない。どんなに卑しめられても苦しめられても、永久にその境遇から脱出できない人がいてもそれを当たり前として、いやむしろそうでなくてはならない、と縛っているのが我々裕福な人間の気がする。

豪華なものを求め、だれにも負けない素晴らしい外見を持つことのできた人間は、他者が自分と同じぐらい素晴らしくなることが許せない。常に人の上でなくてはならない思いに囚われてしまうのだろう。この心情が栄枯盛衰の理を生む結果になってしまっているのだ。

自分が尊ばれ、愛され、信頼される人間になりたいのは万人共通の思いである。そのような人間に見られたくて日々努力をしていると



笹畝洞窟内で説明

言では無い。その万人の思いを無視し自己の思いだけを貫けば、幸福を感じることのできる人と、できない人が両極に存在する結果になるのは必然だ。ここで“すべての人は幸福であるようにと、大自然は動いているのだ”という事実を直視すべきなのである。

万人繁栄道を妨げる生き方が不幸へと続く道であり、隣人一人ひとりを幸せに、思いやりを持って接することが幸福へと続く道なのだ。

多くの物を持っていれば、隣人をより大きく

幸せにできるし、人を愛する気持ちが大きければ大きいほど、より大きい憎しみも消すことができる。要は、一人ひとりの持っているもので回りをいくらでも幸せな世界にすることができる。と同時に、際限のない修羅場に化すこともできるのだ。

すべての人が生きがいを持って自己実現できる人生を送り、同じ仲間として話ができ、協力しあえる社会が実現できたら、なんて思っている。そんな夢みたいな話が実現したらと思いつながら日々を過ごしている昨今である。

地区会員の近況報告（卒業後の私）①

遠隔地から当時の学生生活

平成 16 年 9 月卒業 大庭耕助



私が放送大学に入学したのは、平成 11 年 4 月 59 歳の時で卒業は 16 年 9 月 64 歳の時である。当時わたしは、旧日原町の教育長であったが、これは、前任者の任期半ばの辞職に伴う行政経験のない者の突然の就任によるものであった。教育長の仕事をしているうちに、私の中の学歴コンプレックスのようなものがくすぶりだし、放送大学での履修を思い立ったものであった。

私の住んでいる津和野町は島根県の西端なので、島根学習センターへは距離にして約 200 キロ片道 4 時間かかる。日帰りで学習センターへ行くのはきついで、単位認定試験や面接授業は大方松江に住んでいる長男の家に泊まって受けた。また、面接授業の 2 割程度は山口学習センターで履修した。ここへは車で片道 2 時間半であった。

学習を始めて気付いたのは自分の学習能力の低下であった。若いときには教科書を一度読めば大体の内容はつかむことができたが、テキストを読んでいても字面を目で追うだけで内容が

なかなか頭に入らない。そこで、印刷教材は3回精読するという方法で学習を続けた。あの時、能力の低下に気付き、その克服に努力したことが77歳となったいまの生活を豊かにすることができたと思っている。例えば読書が楽しい、など。

私は今、農作業を（経営者は息子）しながら、津和野町社会福祉協議会会長として非常勤ながら週3、4日は机につき地域福祉の充実に取り組んでいる。

高齢社会となった今、特に高齢化率45%という地域社会は、ただ単に高齢者が多いという社会ではない。地域の人口減少とあいまって、これまで経験したことのない、さまざまな課題を内蔵する地域社会である。行政は地域戦略を立てそれにより様々な施策をすすめるようとしているが、今の私の仕事は、中山間地域津和野町の地域福祉の充実に向け、社会福祉法人として身近なところから一つ一つ取り組むことである、と思っている。

地区会員の近況報告（卒業後の私）②

“ゆるゆるの日々”

—松江に思いを走らせて—

益田市 大庭洋子



卒業をして2年。今回在学時を振り返る機会を頂き、懐かしく思い起こしました。

若き日に戻ったような空間に、自分を置き替えて机に向かった日々、試験に向けて勉強、試験当日の緊張感、面接授業のためのJRでの往復・・・大変・・・しんどい・・・とか言いながら、その時々を結構楽しんでいたように思えます。

そして「卒業したら・・・」と秘かなあつい思いもありました。新たなこととの出会い、何か

を知るって嬉しいことですし、^{こころ}動かされることに会うこともあります。（忘れてしまうことの方が多いけど・・・）持ち合せたものの応用、展開、そして拡がり、その思考過程が好きなところです。その好きなところに触れたくて、まだ何かできるかもと自分の可能性を信じたくて、何かしたい、しようと欲張り心の芽生えも加わって、「卒業後のトライ」が楽しみでしたが、NHKホールから戻ると、そんな思いはどこかへ飛んで消えてしまいました。すべてが終わったかの様に。

不便だが住む環境は抜群良い

今は島根県西部の山間部で「こんなんでいいんかいな？」のゆるゆるの日々、その時の流れに浮いているようなゆるゆるの日々です。“空間が拡く騒音がなく空気がきれい”といいところに住んでいます。

“JR 特急まつかぜ”にも愛着が湧くほどに、“近い松江”を感じていましたが、今はまた遠いところのなってしまうしました。唯一繋がりを感じる定期通信同窓会会報“たたら”、読ませてもらっています。

松江に近ければ、いいなとつくづく思います。時にはイベント etc、行ってみたいと思うこともあります。止めてしまいます。もちろん年齢のこともありますが、遠いということが気持ちのストップ要因になっています。

JRは時間的にも難しいときもありますし、一泊ができないときの日帰りドライブは大変きつい！です。東西に長い島根県で地理的・地域的にも仕方のないことなのでしょうが、残念なことです。（多くの意味で）実距離は無理でも、せめて気持ちの上で短縮は出来ないものかと（自分の中では）思っています。日々の緊張感、充実感が少しでもあればと、思う現在の心境です。

目に見えない親近感が絆を感じる“同窓会”です。“同窓会”の益々のご発展、ご活躍を遠い彼方より心からお祈りいたします。

富士登山を振り返って

人間と文化コース 石倉八千代



私が登山をするきっかけとなったのは、主人を亡くし元気を無くしていた時、友人が誘ってくれたからです。

最初は低い山でしたが、付いて歩くのが苦しかったことを覚えています。それでも頂上に登れた時は山の景色も良く、自然の空気に触れていつしかとても気分が良くなっていました。そして、鳥取県の大山にも登山しましたが、私はゆっくりでしたから友人は先に登って待っていてくれました。

そんな訳で、その後友人に北アルプスの北穂高に連れて行ってもらい、3000m級の山に初めて登頂しました。その時は軽度の高山病も経験しました。それ以来20年位山登りが続いています。

今では職場の友人を誘って、昨年は富士登山をしました(友人は初めて、私は2回目でした)が残念ながら、その時は台風のため天候が悪く、風雨のため7合目でリタイアしました。



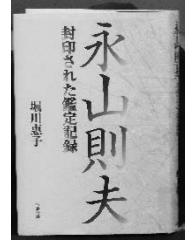
そして今年、再度リベンジしたところ、幸いにも天候にも恵まれ待望の朝日を拝みました。友人の中には、頭痛を訴える人たちもいましたが、全員無事に登頂できて“富士のおはちめぐり”を2時間かけて歩きました。登るときはとても苦しい想いがありますが、一步一步と歩くことでいつしか登って行け、まさに人生の姿に似ています。苦しいのは自分だけではないと思って、頑張る勇気が出てきました。

山登りを通して自分の姿がありました。これからは前向きに生きて行きたいと決意をした富士登山でした。

学習センター
談話室の書棚から

雲南市 土谷章子

- **本の題名** 「それでも彼を死刑にしますか、網走からペルーへ 永山則夫の遙かなる旅」
- **著者** 大谷恭子
- **出版社** 現代企画室



題名の載っている永山則夫は1968年、19歳で4件の殺人事件を犯し、19歳9カ月で逮捕、「刑事処分相当」として、東京少年鑑別所に収監されました。面会に来た母に増悪をむき出しにして「どうしておふくろは俺に冷たかったか」「なぜおふくろは俺を三回捨てたのか」と言葉を投げつけました。

弁護団の依頼で医学博士の石川義博医師が永山則夫の精神鑑定をし、278日かけて鑑定書を作成しました。1981年の東京高裁の裁判長は、この石川精神鑑定を含む一審の記録をつぶさに検討し、無期の判決を出しました。その後の裁判では石川精神鑑定書は採用されず、1990年死刑判決が出て1997年絞首刑が執行されました。遺品の中に残っていたのが、石川義博医師の精神鑑定書でした。生前、この鑑定書を永山則夫は認めようとしなかったのに、最後まで所持していたのです。ようやく世に出てきた精神鑑定書、そこには島根県出身の祖々父から始まる悲劇の連鎖が明るみにされています。

エリクソンは乳幼児期の発達課題を「基本的信頼感」と規定しています。基本的信頼感が得られずに生育する苦しみの詰まった鑑定書を是非ご一読下さい。永山則夫の著書の中で私が読んだのは以下のものです。

『無知の涙』『捨て子ごっこ』『破流』『螺旋』『土堤』『木橋』—新日本文学賞受賞作品。

放送大学島根学習センター 開設20周年記念行事報告



平成28年11月12日(土)島根県立美術館にて、放送大学島根学習センターの開設20周年記念行事が行われた。冒頭、岡部洋一放送大学長から、招待へのお礼と宍道湖の夕日を楽しみにしているとの話があり、続いて放送大学関係者以外の方への放送大学の沿革と学習の仕組み、さらに一般の大学と違い面接授業での学生からの質問や発言が積極的であり、教室の座席が前から埋まっていくことなど特徴的なことの紹介がありました。

続いて、佐々島根学習センター所長から主催者を代表して挨拶がありました。佐々所長からは県教育委員会今岡次長様、市教育委員古藤副教育長様、島根大学服部学長様など多くの来賓の方々へのお礼、平成8年の設立以来20年のあゆみにおいて近年は記念すべき事柄に出会ったこととして、センターでは初めて名誉学生の誕生、同窓会の設立とホームページの開設、卒業研究・修士論文概要集の刊行したことを挙げられました。

続いて、来賓の服部島根大学長からは、島根学習センターが島根・鳥取両地域の高等教育に貢献していること、両大学間で単位互換制度を設けていることなど、関係が深いことを紹介されました。さらに、島根大学も社会人の学びなおしへの使命をもって取り組んでいるので、放送大学の多種多様な授業科目やカリキュラムを参考にしたいことなどの挨拶がありました。

続く公開講演会では、最初に岡部洋一放送大学長が「脳型コンピュータ」について講演された。今はやりのAIと「脳型コンピュータ」の違いの説明があった後、1) AIとは、2) 脳型コンピュータとは、3) パターン認識/変換、4) 自己組織化とDeep Learning、5) 未解決問題、Singularityについて紹介された。



次に島根県立美術館学芸専門官 藤間寛氏が「松江藩主・松平治郷の功績「財政再建と茶の湯文化の振興」」について講演された。松平不昧公が財政再建とそ

それを基にどのようにお茶の文化を築いたかという内容である。時代は江戸の文化文政時代で、葛飾北斎、鈴木春信、応挙、若冲など自由な芸術文化が育った時代のことで、当時、多くの大名と同様に松平家も約50万両の借財があったため、明和の改革(御立派の改革)をやり藩の財政を立て直した。

不昧公が評価されるのは「古今名物類聚」の本を自費出版したことで、世の中の名品がなくなること、心配して、これらを記録した。今日お茶道具研究に基本図書としてまた、茶道具研究の方法を示した。また、明教館で儒学、兵学、算術や医学をやり、人を育てようとした。

島根県立美術館収蔵のコレクション展示室において、藤間寛学芸員による作品の鑑賞と解説が行われました。(上記2件の講演内容はホームページにて報告しますのでご覧ください。)

引き続き会場を同館1階のリトランテ・ヴェッキオロッソにおいて祝賀会を開催した。岡部学長をはじめ、島大服部学長、中四国各学習センター所長、学習センターの関係者が多数参加されて、賑やかに20周年祝賀会となった。(石川・記)



**島根学習センターから
行事のご案内**

- ・日程が変更になる場合がありますので、事前に申し込みをお願いします。
島根学習センター ☎0852-28-5500
- ・学生以外の方、途中から参加の方もOKです。お問い合わせの上ご参加ください。
- ・セミナーは通常第2講義室（スティックビル4階）で行いますが、第1講義室（スティックビル3階）に変更になることもあります。事前にご確認ください。

だんだんサロン****

- ◆「作文の時間」 13:30~15:00 「おしゃべり会」 15:30~17:00
足立悦男 客員教授 1/14 (土)、2/12 (日)、3/11 (土)
※作文の時間・おしゃべり会のどちらか片方だけでも参加できます。

だんだんセミナー****

- ◆「古文で作文～古典文学の楽しみ方～」
野本瑠美 客員准教授 1/13 (金)、2/17 (金)、3/17 (金) 15:00~16:30
- ◆「英語小説を愉しむ」
宮澤文雄 客員准教授 2/18 (土)、3/18 (土) 15:00~17:00
- ◆「身近な記憶の心理」
高山草二 客員教授 1/10 (火)、2/28 (火)、3/21 (火) 14:00~15:30
- ◆「生物よもやま話」
大島朗伸 客員准教授 1/12 (木)、3/23 (木) 15:30~17:00
- ◆「消費生活セミナー(4) あなたを狙っている特殊詐欺～被害に遭わないために～」
多々納 道子 客員教授 2/25 (土) 13:30~15:00

////////////////////////////////////
公開講演会/修士論文発表会 (島根同窓会・学友会との共催)

- 平成29年2月4日(土) 第1講義室 13:30~
- ・公開講演会『歴史の工房—英国で学んだこと』
講師：草光 俊雄 放送大学教授
 - ・修士論文発表会



////////////////////////////////////
公開講演会 / 心理学資格取得説明会・個別相談会

- 平成29年2月18日(土) 第1講義室 (定員60名)
講師：森 津太子 放送大学教授
- ・公開講演会 13:30~15:00
『人のこころは読めるのか?—自己認識と他者認識との関係性—』
 - ・心理学関係資格取得説明会・個別相談会 15:15~16:30



////////////////////////////////////
大卒・学士(看護学)等資格取得説明会/体験発表/個別相談

- 平成29年3月11日(土) 第1講義室 (定員30名)
講師：高橋 さとみ 放送大学広報課専門職
- 体験発表 13:30~14:30 / 説明会 14:30~15:30
 - 個別相談会 15:30~16:30



～同窓会よりお知らせ～

会員名簿をお届けします

遅くなりましたが、第5版の会員名簿を同封しました。記載内容は「入会申込書」における個人情報について「開示同意項目」のみの記載となっています。同意されない項目は未公表ですのでご了承下さい。なお、もし記載内容に誤りがございましたら、お手数ですが竹下までご連絡下さい。

- ①あくまでも個人情報ですので、会員名簿の取り扱いには十分ご配慮下さい。

②住所などについてご連絡先が変更となった場合は、竹下までご連絡下さい。

③FAX番号が未記載の方は、お手数ですが竹下までお知らせ下さい。

ただし開示に不同意される場合は、その旨ご指示下さい。同窓会より連絡を要する場合がありますので、お手数ですが竹下までお知らせ下さい。郵送料節減のためFAXの活用には是非ともご協力をお願いします。

◆同窓会活動日誌◆

(2016年7月～12月)

7月03日(日) 会報“たたら”7号発送準備
 08日(金) 会報“たたら”7号発送
 8月24日(水) 学位記授与式打合せ
 27日(土) 第4期第2回役員会
 27日(土) 第11回広報部会
 27日(土) 納涼会(学友会共催)
 30日(日) 鳥取西部地域公開講演会・
 会員懇談会開催案内状発送
 9月25日(日) 28年度1学期学位記授与式
 25日(日) 28年度1学期卒業を祝う会
 25日(日) 28年度2学期入学者の集い

10月01日(土) 鳥取西部地域公開講演会
 01日(土) 鳥取西部地域会員懇談会
 29日(土) 第4期第3回役員会
 11月12日(土) 開設20周年記念式典
 12日(土) " 学長講演会
 12日(土) " 祝賀会
 26日(土) 消費者問題公開講演会・
 26日(土) 中部地域第2回会員懇談会
 12月10日(土) 第12回広報部会
 10日(土) 第4回会員名簿部会
 10日(土) 第8回公開講演会協議
 10日(土) 忘年会(学友会と共催)
 10日(土) 会報第8号編集作業
 30日(金) "

☞当面の行事案内☞

平成28年度卒業研究・修士論文発表会&公開講演会案内

日時 平成29年2月4日(日) 13:30～17:00

会場 松江市 島根学習センター 3階 「第一講義室」

○公開講演会 13:30～15:00 (主催:島根学習センター・共催:島根同窓会)

演題 歴史の工房—英国で学んだこと—

講師 草光 俊雄先生(放送大学教授)

○卒業研究発表会 15:30～16:30 (主催:島根学習センター・共催:島根同窓会)

発表者 修士論文2人を予定

(電話/0852-28-5500 FAX/0852-28-1800)

平成28年度第2学期学位記授与式開催のご案内

日時 平成29年3月26日(日)11:00~12:00 (主催:学習センター)

会場 松江市 島根学習センター 3階 「第一講義室」

対象者 平成28年度第2学期卒業要件を満たした学生

※後輩たちの卒業を祝福するため、多数のご参加をお待ちしています。

平成28年度第2学期卒業を祝う会開催のご案内

日時 平成29年3月26日(日)12:00~13:30 (主催:島根同窓会)

会場 松江市 島根学習センター 4階 「第二講義室」

会費 1,200円(事前にご予約下さい) 電話0852-28-5500

島根同窓会第5回通常総会開催のご案内(予定)

日時 平成29年4月22日(土)13:30~16:30

会場 松江市 島根学習センター 4階 「第二講義室」

○公開講演会 13:30~15:00 (主催:島根同窓会)

演題 未定

講師 (交渉中)

○第5回通常総会 15:00~16:30 (主催:島根同窓会)

①平成28年度事業報告の件

②平成28年度一般会計報告・同監査報告の件

③平成29年度事業計画(案)の件

④平成29年度予算(案)の件

⑤会則一部改正(案)の件

⑥任期満了に伴う役員改選(案)の件

◆編集後記◆

新しい年を迎えて会員の皆様には、今年こそその思いを新たになさったことと思います。昨年は放送大学島根学習センター開設20周年となり、岡部学長をお迎えしての記念式典、学長講演、祝賀会も成功裏に終わりました。

お陰様でこの“たたら”も第8号を発行する運びとなりました。益々充実した会報を皆様とともに喜び、私たちも成長したいものと思います。特に本年度からは“新企画”として「先輩同窓会会員を訪ねて」が始まりました。この企画第1号に登場された土谷章子さんは、毎月の俳句サークルでも活躍されている方です。次回9号には何方が登場してくださるか楽しみです。

最後になりましたが、本号に寄稿して頂きました皆様にお礼申し上げます。有難うございました。今年も元気で過ごしましょう。

広報部・安部